

名家連ニュース

令和元年10月29日(火)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052)846-5576 NO.658号

第30回 家族交流事業「晴れときどき虹」開催



第30回の節目を迎えた「晴れときどき虹」が、10月26日(土)、中区役所ホールで開催されました。参加者は、206名(出演者を含む)でした。

今年のオープニングは、なかよし・あおぞら合唱団と、もりそデイケアバンド(ハンドベル演奏)が務めました。主催者を代表して、名家連の堀田会長と名古屋市の高倉主幹が挨拶しました。

白石弘巳先生(東洋大学名誉教授 医学博士)が「精神障害者が地域で暮らすためには」と題して、2時間弱、講演を行いました。以下、講演の概要と感想について記します。

心の病気がなくても心が健康とは限らない。心が健康な人は、持てる能力を発揮している。楽しさや充実感を得ている。孤立していない。という幸福観についての話から始まりました。

最後は、精神疾患の発症は止められなくても、再発や症状の悪化は防ぐことができる。鍵は本人と家族全員の相互理解の促進とコミュニケーション能力、問題解決能力の向上にある(自助)。その自助努力を支えるのは、行政(公助)と地域の支援(共助)である。というまとめでした。

名家連では、4月以降、本間貴宣先生の連続講座で、家族が変わらなければならないということを勉強してきました。「高EE」や「リカバリー」など共通の話題が多数ありました。

参加者の感想をいくつか紹介します。

○心の健康「幸福」観の話がとても良かった。当事者も家族も幸福になれる希望が持てた(緑区家族)。

○家族・支援者は特効薬でスカッと障害を克服することばかり考え説教する。特に親は「これでうまくやってきた。」と昔のやり方ばかりすすめる。新しい方向性が見えた。(昭和区当事者)。

○これまでの私の接し方を改めて考えさせられた。高EEが病気の再発に大きく影響している事、これからの接し方次第で本人に辛い思いをさせずに生活できる事、実践していこうと思います(西区家族)。

前日、強い雨は夕方には止み、虹が見られました。その翌日の催しで、心にも虹が浮かびました。